

令和元年度の事業実施状況

長崎祈念館 1頁～14頁

長崎祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和2年3月末までの入館者数は、1,843,244人（一日平均306人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（11,524,703人）の16.0%である。

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
平成29年度	134,010人（370人）	101.5%	—	—
平成30年度	139,105人（384人）	103.8%	35,194人	—
令和元年度 ^(注)	147,467人（474人）	106.0%	40,111人	114.0%
累計	1,843,244人（306人）	—		

（注）令和元年度は、平成31年4月1日～令和2年2月28日までの入館者数

※ 外国人入館者数とは、総合案内における外国語版のリーフレット配布数割合による人数（平成30年度から集計開始）

※ 令和元年度は、上記注釈でも示したとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置で約1か月間臨時休館となったが、開館以来最多の入館者数となった。「平和案内人」や原爆資料館との連携や、館外の入口に館の案内掲示をする等従来からの来館者増対策実施に加え、特に修学旅行生による平和集会の利用増やローマ教皇来崎にも起因する海外からの旅行者増が、来館者増の主な原因と考えられる。その他（来館者増対策等）の項参照

2. 原爆死没者の氏名・遺影の収集状況

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。市、全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
平成29年度	285人	84.3%
平成30年度	343人	120.4%
令和元年度	329人	95.9%
累計	9,698人	—

※ほぼ横ばい状態である。引き続き関連団体に周知を行い、登録数の増加に努めたい。

3. 被爆体験記等の収集・整理状況

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数	対前年比
平成 29 年度	27 人分	260.7%
平成 30 年度	58 人分	37.0%
令和元年度	124 人分	213.8%
累計	1,456 人分	—

※ 令和元年度は、長崎市の協力を得て、長崎市内の被爆者に収集事業周知のチラシ配布したことなどから、平成 30 年度の 2 倍以上の収集数となった。今後も自治体などと協力して、被爆者に直接働きかけをし、収集増につなげていきたい。

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記の中から選び、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳し遺影・手記閲覧室にコーナーを設けてゆっくりと閲覧できるようにしたうえで、企画展を開催した。展示後は編集等行い、体験記朗読に活用する。

(参考) 企画展実績

○第 9 回企画展「女性たちの原爆」

期間：平成 31 年 1 月 30 日～令和 2 年 3 月 31 日

(臨時休館のため、実質は令和 2 年 2 月 28 日まで)

概要：女性たちが綴った手記や資料、及び厚生省（当時）が収集し、当館で公開している手記を展示し、女性であるがゆえに味わった多くの苦悩と、原爆の惨状、平和への思いを伝える。



第 9 回企画展「女性たちの原爆」の展示風景

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行い、体験記の収集増に努めた。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数
平成 29 年度	2 人
平成 30 年度	6 人
令和元年度	56 人
累 計 (平成 17 年度から)	75 人

※ 令和元年度は長崎市の協力を得て、長崎市内の被爆者へ直接協力をよびかけたことにより、多くの体験記が集まった。今後も自治体などと協力し、収集に努めていきたい。



執筆補助の様子 (向かって右は祈念館職員)

6. 被爆者証言映像等の制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言映像を制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 被爆者証言映像実績 (制作・収集状況)

年 度	収録数	対前年比
平成 29 年度	15 人 (うち海外 6 人)	125.0%
平成 30 年度	15 人 (うち海外 8 人)	100.0%
令和元年度	20 人 (うち海外 7 人)	133.3%
累 計	476 人 (うち海外 67 人)	—

※海外内訳

韓国 12 人、アメリカ 22 人、ブラジル 20 人、カナダ 5 人、ボリビア 3 人、メキシコ 1 人、ペルー 1 人、アルゼンチン 1 人、パラグアイ 1 人、オランダ 1 人

7. 被ばく医療情報の提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 (原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野) の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線 Q & A 等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話 (「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供) を行っている。平成 24 年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部 (五島市) とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ている。また、海外原爆展において被ばく医療情報パネルを作成し、放射線 Q & A の冊子などとともに展示している。

(参考) 実績 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
平成 29 年度	10 回	455 人	143 人	598 人
平成 30 年度	10 回	413 人	133 人	546 人
令和元年度	9 回	439 人	119 人	558 人
累計 (H20 年度開始)	118 回	4,059 人	1,218 人	5,277 人

※全平均受講者数 44.7 人/回、平成 31 年度は 62.0 人/回

※令和元年度講話テーマ (抜粋)

『知って得する健康クイズ』(第 1 回)、『一石二鳥!? 運動×頭の体操で健康な毎日を』(第 3 回)、『もの忘れのお話』(第 6 回)、『薬と健康』(第 7 回)、『糖尿病』(第 9 回) ほか ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため第 10 回は中止

<講座会場の様子>



第 1 回被爆者健康講話 (祈念館会場)



(五島会場)

8. 平和へのメッセージ収集、整理状況

平和への行動に参加してもらうため、来館者自身が文字や絵によるメッセージを作成し、祈念館が収集、公開する。メッセージは祈念館で長期間保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

(参考) 実績

年 度	収集登録数
平成 29 年度	4,185 件
平成 30 年度	4,219 件
令和元年度	3,762 件
累計	89,185 件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

9. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。令和元年度はアメリカで実施した。

また、広島・長崎の両市が主催してアメリカで実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集英語300冊を提供した。

○開催場所

バレンシア カレッジ イーストキャンパス (オーランド市)

オーランド公共図書館 (オーランド市)

○被爆体験講話

清野定廣氏(長崎被爆者：非核特使)による講話をオーランド市のバレンシア カレッジ イーストキャンパスで2回、オーランド公共図書館で1回、ウィンターパーク公共図書館で1回、計4回実施。

○外務省、広島市、長崎市などの協力が得られた。オープニングレセプションにはバレンシア カレッジ関係者、在留邦人などが出席し、交流を図った。開催期間中、5,600人の来場を得ることができた。



オープニング レセプション



展示会場



被爆体験講話

(参考) 開催実績 (過去3年)

年度	会場	場所	期間	来場者数
平成29年度	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	ハノイ市 (ベトナム社会主義共和国)	9月25日 ～11月5日	7,169人
平成30年度	ポルト市庁舎	ポルト市 (ポルトガル共和国)	10月1日 ～11月30日	7,458人
令和元年度	バレンシア カレッジ イーストキャンパス	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月7日 ～10月11日	3,000人
	オーランド公共図書館	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月14日 ～11月2日	2,600人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】 13 か国・21 都市

アメリカ 4 都市、スペイン 1 都市、ベルギー 1 都市、マレーシア 1 都市、オランダ 1 都市、トルコ 2 都市、ロシア 1 都市、アイスランド 2 都市、ニュージーランド 2 都市、カザフスタン 3 都市、ドイツ 1 都市、ベトナム 1 都市、ポルトガル 1 都市

【来場者数】 117,250 人

10. 収集資料の多言語化

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言映像等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 翻訳状況

【体験記】

年度	翻訳数 (編)				合計
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	
平成 29 年度	7	7	7	8	29
平成 30 年度	5	5	5	3	18
令和元年度	5	5	5	0	15
累計	164	164	164	44	536

※「その他」フランス語 7 編、ドイツ語 4 編、イタリア語 3 編、スペイン語 5 編、ポルトガル語 3 編、ロシア語 6 編、ベンガル語 1 編、カザフ語 1 編、マレー語 2 編、アラビア語 2 編、ベトナム語 3 編、ハンガリー語 2 編、モンテネグロ語 2 編、オランダ語 2 編、ヒンドゥ語 1 編

【被爆者証言映像】 ※ () 内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数 (編)				合計
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	
平成 29 年度	7(5)	7(5)	7(5)	2(2)	23(17)
平成 30 年度	4(2)	4(2)	4(2)	0	12(6)
令和元年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
累計	50(18)	50(18)	50(18)	34(16)	184(70)

※「その他」オランダ語 3 編、ロシア語 8 編、フランス語 8 編、ドイツ語 8 編、アラビア語 3 編、ベトナム語 2 編、ポルトガル語 2 編

11. 平和ボランティア育成外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう育成を行った。令和元年度は5月～10月に開催した。

(参考) 実績

年度	開催講座 () : クラス数	受講者 (修了者) 数
平成 29 年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (2)、中国語 (1)	31 人
平成 30 年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (1)、中国語 (1)	28 人
令和元年度	英語 (1)、韓国・朝鮮語 (2)、中国語 (2)	40 人

※ 令和元年度修了者内訳 英語 17 人、韓国・朝鮮語 14 人、中国語 9 人

※ 修了者は (公財) 長崎平和推進協会の平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。

〈ボランティア登録者数〉英語 76 人、韓国・朝鮮語 6 人、中国語 17 人



語学講座受講者 (英語)
フィールドワークの様子

12. 被爆体験記朗読事業の実施

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成 23 年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成 24 年度と平成 25 年度の 2 年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成 26 年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成 27 年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成 30 年度は、第 2 期生育成講座を実施・完了した。

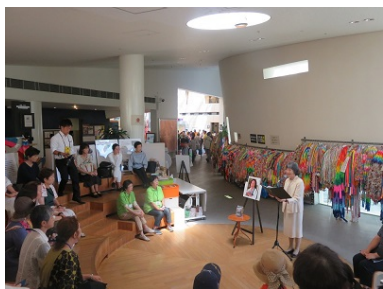
(参考) 実績

メンバー構成 (令和 2 年 3 月末現在) 76 人 (女性 68 人、男性 8 人)

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (*9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他(朗読劇など)
平成29年度	182回	16回(13回)	39回(学校・団体他)	6回(映画フォーラム・救護所イベント)
平成30年度	178回	18回(15回)	57回(学校・団体他)	1回(映画フォーラム)
令和元年度	174回	14回(11回)	98回(学校・団体他)	1回(Love&Peace Message)

※8月は8日・9日に実施

〈活動の様子〉



朗読会「9日を忘れない」
(資料館いこいの広場)



Nagasaki Love&Peace Message
(交流ラウンジ)



第15回定期朗読会
(交流ラウンジ)

13. 家族・交流証言者等の派遣事業の実施

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」および「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。

(参考) 【長崎市外派遣】実績

年度	全件数	長崎市外		
		家族・交流	被爆体験記	聴講者数
平成30年度	102件	66件	36件	21,678人
令和元年度	177件	101件	76件	33,587人
累計(H30年度開始)	279件	167件	112件	55,265人

〈派遣の様子〉



家族・交流証言講話
(8/26 愛知県立春日井工業高等学校)



被爆体験記朗読会
(6/27 西海市立大島東小学校)

【海外派遣】

年度	場所	期間	件数	聴講者数
平成30年度	ポルトガル共和国 (リスボン市・ポルト市・カスカイス市・エストリル市)	9月29日～ 10月4日	9件 ※家族・交流証言講話 4件 体験記朗読会 5件	425人
令和元年度	マレーシア共和国 (クアラルンプール市)	10月11日 ～10月14日	6件 ※家族・交流証言講話 3件 体験記朗読会 3件	359人



国立ピープルロード修道院
附属高等学校



マラヤ大学



マレーシアプトラ大学

14. 被爆体験伝承者等派遣事業語学研修の実施

来日外国人に対して、また国外においても講話が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。

- (1) 海外派遣決定者語学研修（英語） ※個別指導
 - ・受講者 2人（家族・交流証言者1人、被爆体験記朗読ボランティア1人）
 - ・実施内容 令和元年8月～10月 週1回 計7回実施
- (2) 家族・交流証言者語学育成研修（英語） ※グループ指導
 - ・受講者 4人
 - ・実施内容 令和元年11月～令和2年3月 週1回 計17回実施
- (3) 被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※グループ指導
【中・上級者向けレッスン】
 - ・受講者 11人
 - ・実施内容 令和元年12月～令和2年3月 月1回 計4回実施

【初級者向けレッスン】

- ・受講者 10人
- ・実施内容 令和元年11月～令和2年2月 月2回 計8回実施

15. ピースネット事業

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の大学、自治体等との海外ピースネットも実施している。

(参考) 実績 ※ () 内数は海外との数

年度	回数	利用団体数
平成29年度	22(3)回	22団体
平成30年度	23(6)回	26団体
令和元年度	21(3)回	21団体
累計(平成16年度から)	379(41)回	307団体

〈ピースネットの様子〉



2019.10.25 ウクライナ共和国第7公立学校



2019.12.12 岸和田市立中央小学校

16. 修学講習(被爆体験講話)の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

(参考) 実績

年度	回数	利用者数
平成 29 年度	149 回	3,963 人
平成 30 年度	97 回	2,376 人
令和元年度	153 回	4,040 人
累計 (平成 20 年度から)	1,551 回	39,282 人

※会場収容人数は最大 40 人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

17. 国際協力・交流プログラムの実施

平成 21 年度のマレーシア海外原爆展の開催を契機としてアジアの若者との連携ができつつあることから、長崎祈念館が特徴とする国際協力・交流にかかる平和ネットワークの構築とその広がりをめざし、各国の若者が被爆地・被爆者を知る平和学習、長崎で平和活動に取り組む若者との意見交換等の交流、被ばく医療を含めた国内外の専門家によるシンポジウムなどの各プログラムを実施している。

(参考) 実績

年度	国名/招聘	期間
平成 29 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 5 人	2 月 1 日～2 月 7 日
平成 30 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 6 人	11 月 14 日～11 月 20 日
令和元年度	マレーシア 7 人、韓国 5 人	2 月 7 日～2 月 14 日
累 計 (平成 22 年度～)	マレーシア 72 人、韓国 60 人 インドネシア 1 人、中国人 24 人	—

※

長崎祈念館・長崎原爆資料館・被爆遺構見学、ホームステイ、メインプログラム「Youth Conference in Nagasaki」(2/10～13)への参加。当プログラムでは、長崎市長による長崎が取り組む平和行政の講義、被爆者による被爆体験講話を聴講したのち、国内大学の留学生や長崎の大学生らと国際平和ネットワーク構築のためにグループディスカッション・報告会を実施した。(13 か国 33 人が参加)

〈プログラムの様子〉



祈念館の見学を行うプログラム参加者



長崎市長の講義を真剣に聞く参加者



「Youth Conference in Nagasaki」にてディスカッションを通じ、互いの認識を共有する参加者

18. 国際平和祈年祭 (Nagasaki Love & Peace Message) の実施

これまで実施していた「長崎国際平和映画フォーラム」をリニューアルして開催。映画だけでなく、朗読や音楽の持つ発信力に着目・依拠して、原爆被爆の実相、平和の尊さを特に若い世代に伝えていくことを目的とした。会場を祈念館だけとして、映画上映やピアノ・ギター演奏、朗読ボランティアによる被爆体験記朗読劇などを実施した。

(参考) 実績

年 度	上映映画数	期 間	来場者数
平成 29 年度	4 作品	12 月 9 日・10 日 (2 日間)	1,900 人
平成 30 年度	4 作品	12 月 15 日・16 日 (2 日間)	1,100 人
令和元年度	2 作品	12 月 15 日 (1 日間)	500 人
累計 (平成 22 年度から)	76 作品	—	14,255 人

※主な上映作品等 (令和元年度)

【映画】 「聲の形」「ひろしま」

【その他プログラム】

劇団 TABIHAKU による音楽とおはなし、想いを未来につなぐ朗読の会・つくばによる朗読劇「明日が来なかった子供たち」、永遠の会による朗読「鬼のごたる」など



劇団 TABIHAKU によるオープニング



永遠の会による朗読劇「鬼のごたる」

19. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から、来館者に対する新たなサービスの提供・利便性の向上について、展示方法や設備の改修等も含めた「情報システム機器更改展示整備基本構想」を広島祈念館とともに策定した。

20. 中長期修繕計画の策定

平成 15 年の開館から 17 年が経過し、多くの設備が経年劣化しているため、開館後 30

年間の修繕計画を策定した。

21. その他（来館者増加対策等）

- ・学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促した。

（参考）実績 【追悼空間利用】 ※平成 19 年度から統計開始。

年 度	件 数 (学校数)	利用者数
平成 29 年度	291 件	16,952 人
平成 30 年度	351 件	19,491 人
令和元年度	411 件	24,139 人
累 計 (平 成 19 年 度 ～)	1,802 件	103,019 人

- ・祈念館の PR 動画（15 秒 2 パターン、3 分）を資料館の観覧出口付近の動線上で常時放映することで祈念館の周知と来館誘致を図った。
- ・外国人向け英語のフリーペーパーや、夏休みの子供向け新聞、新年の新聞の被爆 75 周年特集頁に記事や広告を掲載することで、幅広い層に祈念館をアピールした。
- ・被爆体験記を活用し、遺影・手記閲覧室等で企画展示を実施するとともに、企画展のテーマを基にした朗読ボランティアによる朗読会を実施した。また、企画展では海外の方にもわかるようあらすじ等の英中韓訳を付記した。
- ・長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）や被爆者団体、長崎県、長崎市等の各関係機関との連携を図り、「核兵器廃絶市民講座（核兵器廃絶長崎連絡協議会主催）」「ナガサキアートプロジェクト オープニング（NAHEA 主催）」の開催等、交流ラウンジでの平和関連行事を開催（令和元年度 55 件）した。

〈交流ラウンジ活用例〉



長崎国際交流協会、長崎平和協会共催による
外国人による日本語弁論大会
(交流ラウンジ)



NAHEA 主催による
ナガサキアートプロジェクト 2019 開会式
(交流ラウンジ)

22. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

- ・臨時休館：令和 2 年 2 月 29 日から 3 月 31 日まで（以降も継続休館）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会、被爆者健康講話などを中止した。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

平成29年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H29 4月	8,078	44,588	18.1%	103.4%	116.1%
5月	15,872	103,355	15.4%	135.1%	168.8%
6月	13,901	58,127	23.9%	104.0%	104.9%
7月	10,271	44,582	23.0%	92.3%	101.8%
8月	13,670	72,253	18.9%	87.8%	99.1%
9月	11,595	56,144	20.7%	90.9%	80.7%
10月	16,025	95,464	16.8%	100.1%	99.3%
11月	13,265	75,348	17.6%	96.4%	90.8%
12月	8,316	39,757	20.9%	110.7%	94.6%
H30 1月	6,852	31,593	21.7%	104.4%	97.3%
2月	7,148	34,861	20.5%	101.1%	95.2%
3月	9,017	49,242	18.3%	102.8%	93.5%
合計	134,010	705,314	19.0%	101.5%	103.1%
累計	1,556,672	10,153,709	15.3%	—	—

平成30年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H30 4月	8,791	48,051	18.3%	108.8%	107.8%
5月	15,084	95,146	15.9%	95.0%	92.1%
6月	13,243	51,824	25.6%	95.3%	89.2%
7月	10,979	34,051	32.2%	106.9%	76.4%
8月	14,793	62,110	23.8%	108.2%	86.0%
9月	12,363	52,685	23.5%	106.6%	93.8%
10月	16,186	92,334	17.5%	101.0%	96.7%
11月	15,970	82,758	19.3%	120.4%	109.8%
12月	7,427	38,962	19.1%	89.3%	98.0%
H30 1月	6,753	35,301	19.1%	98.6%	111.7%
2月	7,576	37,307	20.3%	106.0%	107.0%
3月	9,940	47,818	20.8%	110.2%	97.1%
合計	139,105	678,347	20.5%	103.8%	96.2%
累計	1,695,777	10,832,056	15.7%	—	—

令和元年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H31 4月	9,666	51,854	18.6%	110.0%	107.9%
R1 5月	16,758	104,208	16.1%	111.1%	109.5%
6月	15,501	56,386	27.5%	117.1%	108.8%
7月	11,592	39,242	29.5%	105.6%	115.2%
8月	14,958	65,575	22.8%	101.1%	105.6%
9月	13,418	53,959	24.9%	108.5%	102.4%
10月	22,711	108,372	21.0%	140.3%	117.4%
11月	18,465	89,317	20.7%	115.6%	107.9%
12月	9,091	48,433	18.8%	122.4%	124.3%
R2 1月	7,880	32,848	24.0%	116.7%	93.1%
2月	7,427	29,734	25.0%	98.0%	79.7%
3月		12,719	—	—	26.6%
合計	147,467	692,647	21.3%	106.0%	102.1%
累計	1,843,244	11,524,703	16.0%	—	—

